「虎塚古墳を未来へ」

茨城キリスト教学園高校　松原彩名

国指定の史跡・虎塚古墳とは

虎塚古墳は、私の住む茨城県のひたちなか市にある７世紀初頭に造営されたと考えられている前方後円墳である。1973年、大塚初重氏を中心とする調査団によって発掘が進められた。
石室内には、鉄バクテリア由来のベンガラという顔料で描かれた２つの大きな円と連続三角文が特徴的な彩色壁画が残っている。壁画の保存状態はとても良好で、ここまで色落ちせずに顔料が残っている作例は当時のものとしては極めて珍しい。実際に壁画を見たいという人々からの熱い要望があり、度重なる議論の末、公開を前提とした保存体制となった

虎塚古墳　墳丘
（本人撮影）

石室内部の様子
（画像出典：ひたちなか市教育委員会）

問題点：地域の若者の関心の低さ

私は幼い頃から考古学に興味があり、この古墳に隣接したひたちなか市埋蔵文化財調査センター（以下、「埋文」で略記）が主催する子供向けの「ふるさと考古学」講座に小学4年生から6年間参加した。高校生になってからは、ボランティアスタッフとしてこの古墳を始め、考古学を学ぼうとする子供達の指導の協力をしてきた。
発掘50周年の節目に当たる2023年は、たくさんの人が壁画見学に訪れ、関連するいくつかのイベントも開催されたので、古墳好きの間では大いに盛り上がった年だった。
しかし、その事を熱く語っても、同年代の友人の反応は極めて鈍いものだった。私はそれに大きな違和感を覚えた。
本来、市が所有している貴重な文化財は、市民自身が守り継承していくべき物だ。

「ふるさと考古学通信」2021年vol.3
ひたちなか市埋蔵文化財センターHPより

今は地域の住民がボランティアで古墳周辺の草刈りや清掃を行っているが、それらはいずれも比較的高齢の人たちだ。
この地域の大切な宝を保護していくためには、次代を担う私達、若い世代がより強い関心を持って古墳と向き合わなければならないと痛感している。

若い世代に興味を持ってもらうための実践と提言

そこで、地元の小中高生たちに興味を持ってもらいたいと考えている私が、これまで行ってきた活動やその経験を元にして、今後展開していこうと計画している３つのプランを、次に述べていくことにする。

１，教育普及活動の展開
高校生になりスタッフという立場で「ふるさと考古学」に参加し、その時に見た、出土品を実際に手に取った子供達のワクワクした表情はとても強く印象に残っている。生徒として参加していた頃の自分も同じ気持ちだった。
この感動体験を味わい少しでも虎塚古墳に対する興味を高めてもらうために、埋文協力の下、地元の小中高生に向けた出張授業を行いこの古墳周辺で出土した土器や石器等の出土品に触れてもらう。

２，「古墳旅マップ」の制作とフィールドワークの展開
私は座学よりも、フィールドに出て体を動かす方が向いている。そのため「ふるさと考古学」でも実際に遺跡に赴き、学ぶ時間が好きだった。そんな経験から、古墳というものが一体何なのかを肌で感じ、その存在価値を知ってもらうことが、関心を高める近道だと考えるに至った。
そこで、子供達が自主的にフィールドワークを行い興味を持てるように、ひたちなか市に点在する古墳の所在地と特色が分かるアプリを現在作成中である。

３，壁画のデザインの応用と普及
地元の製菓メーカーが、壁画のデザインを取り入れた菓子を販売している。その紹介イラストを古墳情報誌、「古墳DO」に描き店舗に置いてもらったところ、その菓子の売れ行きも伸びたとのことだった。この一連の体験から、おおらかなユーモアを湛えた壁画の独自な幾何学的デザインに秘められた大きな可能性に気付くことになった。
そこで「古墳DO」を店頭に置かせてもらっている地元の人気コーヒー店のパッケージにこの興味深いデザインを取り入れてもらおうと計画している。このコラボが実現すれば、ユニークなデザインのパッケージができるだけでなく、地域における壁画の認知度も大幅にアップすることになるだろう

フリーペーパー「古墳DO12号」
遺跡や古墳にまつわる情報を掲載したフリーペーパー。
今回のポスターセッションのことも取り上げられている。

「彩色壁画」
虎塚古墳の壁画の紋様と市の木である銀杏がデザインされたお菓子
（「お菓子のきくち」HPより）

最後に

私の願いは、地域の子ども達が虎塚古墳への興味をきっかけに、考古学そのものにも目を向けてくれるようになることである。
この願いの実現に向けて、これまで地元で行なってきた活動を継続すると共に、大学で考古学を専攻し、更に深い専門知識や現場での経験を蓄えていきたいと考えている。
考古学、そして遺跡は今を生きる人と古代に生きた人を繋ぐ事ができる大きな可能性を秘めたものだということを心に留めながら虎塚古墳を未来へと繋げていきたい。

参考資料：「装飾古墳と海の交流　虎塚古墳・十五郎穴墓群」
稲田健一　著／新泉社
虎塚古墳の保存管理の体制について／ひたちなか市教育委員会